
メガネ

朧 琥珀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メガネ

【Nコード】

N8978E

【作者名】

朧 琥珀

【あらすじ】

社会の授業。僕とあの子は目が悪くって。

僕は社会の授業が好きだ。

別に、先生の授業が好きなんじゃないし、成績だって良い訳じゃない。

国の特色とか、過去の出来事とか、これからの政治にも興味ないけれど。

正確に言うと、授業というより、授業開始の時間と授業終了の時間……かな。

授業開始3分前。

そろそろだ。

「なお〜」

ほら、来た。

動作に合わせて、ふわりと揺れる茶色い髪。

柑橘系のすっぱい香りが、鼻をくすぐる。

何ていう香水だろう。

「何お前。また？」

嫌そうに尋ねているけれど、実は嬉しかったり。
結構、僕って天邪鬼なんだ。

「うん、また〜」

軽やかで、のんびりとした口調。
すらりと長い指が伸びて来て、僕から眼鏡を取り上げた。
途端に視界がぼやける。

僕は目が悪い。

そしてこいつも目が悪い。

社会の先生は字が小さいから、黒板の字が見えないんだと。
で、毎回僕から眼鏡を借りて行く訳。

眼鏡買えって？

ばか。

そんな事したら、こいつに眼鏡貸せなくなるだろ。

授業の初めと終わりの小さな接点も、僕にとっては大切なんだ。

僕の授業に多少……ううん、かなり支障がでるけれど、そんなのも
気にならないくらい。

あのふわふわの髪とか、柑橘系の香りとか……

とにかく全てが愛しくて、たまらなく抱き締めたくなるけれど、必
死に堪える。

そんな事したら、変態呼ばわり間違いなしだろ？

だから、素っ気ないふりをして。

そして今日もまた、目を細めながら、授業を受けるんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8978e/>

メ ガ ネ

2010年10月10日02時23分発行